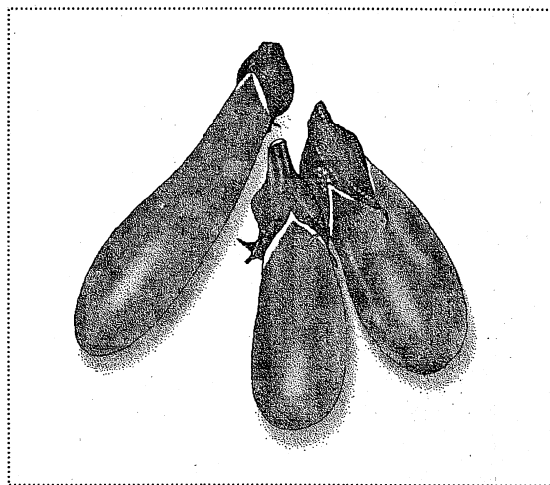


古い葉はこまめに除去

—— 鮫島 國親

古くから日本人に人気の高い野菜で、一般に流通している品種とは別に、在来品種が多くの方で栽培され、食文化を支えています。みそとの相性が良く、調味料や油がしみ込みやすいことから、煮物、揚げ物、漬物などに幅広く利用されています。本葉八枚で一番果が着生し、以降2枚おきに次の花が着生します。花は下を向いて咲くので、雌しべが短い（短花柱花）と花粉が着きにくく、着果不良になりやすいです。雌しべの長い花が着くよう草勢維持に努めましょう。今回は家庭菜園で手軽に作れる露地栽培を紹介します。

生育適温は22-30度、発芽適温は25-35度です。肥沃な土壌を好み、水分を多く必要とすることから、水かけの便利な場所が適します。連作すると土壤病害が発生しやすくなるので輪作(畑5年)が望ましいです。連作をする施設栽培等では土壤消毒や接ぎ木栽培を行います。苗は購入する場合がありますが、好みの品種を種で購入して育苗から始めるのも楽しいです。育苗期間は50日くらいです。定植期は4月-5月上旬ごろで、最初の花が咲くころが適期です。本



ぼにはあらかじめ1平方メートル当たり苦土石灰150グラム、堆肥3キログラム、化学肥料100グラム（三要素15%の場合）を目安として施します。栽植密度はうね幅2メートル、株間55-70センチとします。定植後は仮支柱を立て苗を固定します。株が伸びてきたら、一株3-4本の主枝を選び支柱に誘引します。主枝から発生する側枝は第一花の上1枚を残して摘心し、一番下の脇芽を一つ残して他は除去します。果実を収穫したら、この側枝は一芽残してハサミで切り落とします。また、こまめに古い葉を除去しましょう。追肥は二番果の収穫が始まる時期から2週間に一回施します（化学肥料1平方メートル当たり20グラム/回）開花から収穫までの日数は20-25日です。生育が進み繁茂してきたら、地面から

の高さの半分くらいで枝を切る更新剪定を行うと1カ月後に再び秋ナスが収穫できます。

（鹿児島県農業開発総合センター副所長）

平成20年4月10日（木）／南日本新聞